



5/13 「社会を明るくする運動」 強調月間を前に市役所を訪問

7月1日から「社会を明るくする運動」の強調月間がスタートするのを受け、西地区保護司会筑西分区（古谷野力分区長）のみなさんが市役所を訪れ、内閣総理大臣のメッセージを須藤茂市長に手渡しました。



常陽銀行の行員が、地域の見守りを行います。



3/15 1年かけて 真岡線沿線を 完歩！

筑西市ウォーキングクラブ連合会（鳥生厚夫会長）主催による、「真岡線を2駅毎歩こうウォーク」が、終点の茂木駅に到達しました。完歩を達成した参加者のみなさんには、真岡鐵道（株）から証明書が渡されました。

令和2年度初回
集合：6月20日（土）下館駅 午前10時
コース：下館駅～折本駅～下館駅（10km）
参加費：300円（含全完歩賞品代・保険料）
申・問：市ウォーキングクラブ連合会 鳥生
 ☎ 080-1090-5748

5/1 常陽銀行と見守り活動の 協定を締結

市と（株）常陽銀行は「見守り活動の協力に関する協定」を締結しました。協定は、常陽銀行の行員が営業などで市内を巡回する際、高齢者や障がい者、子どもなどの異変や、道路の陥没などの異常を発見したときに、市に通報することで、安心・安全な地域づくりを目指すものです。

市民コラム「コロナ禍社会とSDGs」

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス。日本での感染者数は減少傾向にあるものの、今なお予断は許さない状況だ。3密を意識した生活の中、何か見落とししていないだろうか。今回は、SDGsの考え方に基づき、コロナ禍の裏側で起こっていることを紐解く。

SDGsの考え方に「トレードオフ」というものがある。何か行動を起こすと、何か新たな不具合が起こるとのことだ。今回、コロナ禍ではSDGsの目標である「3・すべての人に健康と福祉を」を達成するため、みんなが努力をした。しかし、失ったものがある人がいることも事実。サービス業従事者にとっては、顧客が来ないため収入が無くなり「8・働きがいも経済成長も」が失われてしまった。また、子どもたちにとっては、休校となり「4・質の高い教育をみんなに」が提供されなくなってしまった。

例えるなら、私たちはルービックキューブのような世界に生きていて、1つのルービックキューブをさまざま人が自分の願う未来を叶えるため



に、次々と動かしている。得てして自分と相入れない未来を優先する人を敵視してしまふことが多い。そのような思考に陥る前に、まずは相手の状況を理解する努力をしてほしい。相手を理解し、受け入れることこそ、SDGsの「目標達成」への第一歩なのだから。

私たちは、家族や友人を愛し、守りたいと願うが故に、心に基づいた行動を取る。みなさんの周りにも、自分とは違った行動を取った人はいないだろうか。そのような人がいても、相手を知る努力をしてほしい。みんなで協力し、ルービックキューブの面を揃えるように。互いを理解し協力しあうことがSDGsの17番目の目標である「パートナーシップで目標を達成しよう」ということに繋がるのだから。

（市民記者 國府田 和弘）